

周波数ひっ迫対策のための国際標準化連絡調整事務 平成22年度 継続評価結果

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
デジタル電波利用における電波雑音の状況に関する国際標準化	H21～24	<ul style="list-style-type: none"> ・電波雑音の測定の確立は重要な課題であり、その標準化は極めて重要。確実な標準化への貢献が強く期待される。 ・電波雑音に関する技術試験事務において測定が本格化するので、良く調整して標準化に取り組んでもらいたい。 ・確実に寄与できるよう、目標を定め必要な作業やデータ収集に努めること。 	3.6
700MHz帯等を用いた移動通信技術等の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H21～23	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広く能動的な活動を行っている。ITS-TFやITS TGのChairmanを日本から出すなど国際調整の舞台でも積極的に動いている。電波利用料による国際標準化連絡事務として優れた案件である。 ・計画通りに進んでおり、問題ない。標準化には仲間作りが重要で、欧米のみならずアジア諸国との連携も重視して進めてもらいたい。 	4.1
IMT-Advancedの無線インターフェイス技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H21～23	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な活動がなされており、成果も目に見える形で上がっており、第一フェーズとしては、十分に評価できる。 ・対象とする標準化は、今後極めて重要であり、それに向けて戦略的な取り組みであり、寄与文書も多く、問題はない。確実な標準化への貢献が強く期待される。 ・結果的に、我が国にとってどれだけ有益な提案が採択されるかが重要であり、そこまで責任をもって実施できるとよい。 	4.3
海上移動業務VHF帯データ通信方式の国際標準化	H21～23	<ul style="list-style-type: none"> ・海上移動用のVHFデータ通信は国際的に重要な標準化であり、日本から大いに貢献することが望まれる。 ・国際会議における日本のリーダーシップが少し弱く感じられるが、ITU-R勧告改訂案作成ドラフティンググループ議長に日本人が選出されるなどの成果も得られている。 ・成果目標がクリアであるので、実施内容の必要性、実施計画の妥当性も明快で分かり易く、評価できる。 	3.6